



アラカン漫画家、統計学に挑む

■ すがや みつる

講談社の理系新書シリーズ「ブルーボックス」に、『複雑さに挑む科学—多変量解析入門』（柳井晴夫, 岩坪秀一）という1冊がある。刊行は1976年。当時、26歳で駆け出しのマンガ家だった私は、書店でこの本を見つけると、「マンガのヒントになるのではないか」という直感だけで即座に購入した。しかし、高卒でマンガの世界に飛び込んでいた私にはチンプンカンプンで、すぐに投げ出した。書庫の片隅でホコリまみれになっていた本書のことを思い出したのは、2005年に54歳で早稲田大学人間科学部eスクールに入学した後のことである。

eスクールはインターネットを使った通信制の大学で、心理系の科目が多いことから統計学が必修科目になっている。これが頭痛のタネだった。アマチュア無線やパソコン通信、インターネットなどに早くから親しんできた私は、業界では「理系マンガ家」と見られていたが、けっして「理数系マンガ家」ではなかった。それが証拠に統計記号の「 Σ 」の意味も分からず、「確率を計算するには、高校で学んだ積分を使う」と説明されても理解不能。高校生ときには将来の職業をマンガ家と決め、「マンガに数学など不要」と授業をさぼっていたせいである。分散や標準偏差を扱った基礎的な統計学は、ちょっとだけ使えたExcelで凌いだが、すぐに難関が立ちはだかった。あの因子分析である。

因子分析は「多変量解析」の一種であるという。ここで思い出したのが、26歳のときに挫

■ すがやみつる (菅谷 充)
漫画家・小説家／京都精華大学マンガ学部キャラクターデザインコース教授

1950年静岡県生まれ。1971年『仮面ライダー』（原作・石ノ森章太郎）にて漫画家デビュー。1983年『ゲームセンターあらし』『こんにちはマイコン』で第28回小学館漫画賞受賞。1987年第1回ネットワーク大賞個人賞（アスキー）受賞。2003年第1回モータースポーツ大賞（社団法人日本自動車工業会）受賞。2011年、早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了後、同大学人間科学部eスクール教育コーチを経て、2012年より京都精華大学マンガ学部勤務。



折したブルーボックスの『複雑さに挑む科学—多変量解析入門』だった。書庫で眠っていた本書を引っ張り出してページを繰ると、最初に書かれていたのは統計学の基礎である「分散」について。かつては何が書かれているのか意味不明だったページが、スラスラと読めた。しかも因子分析の原理まで理解できたのだ。なんという進歩！ 50代になって初めて学んだ統計学ではあったが、それなりに身につけていたらしい。

そんな体験のおかげで学ぶことが面白くなった私は、大学院の修士課程に進み、そこでPythonというプログラミング言語を使って各種統計計算ができるWebサイトを作ることになった。理工学部の図書室に通っては統計学の参考書を借りて、プログラミングを繰り返しているうちに、「 Σ 」を含んだ数式を見るだけで、計算用のプログラムも書けるようになっていた。p値の確率計算をするために必要な積分の知識も、曲線を伴う平面の面積を計算するプログラムを組むことで、ようやく原理を知ることができた。

すでに60歳のアラカン（アラウンド還暦）になっていたが、統計学を学んだことで、客観的な視点が養われたように思う。そして次にやってみたいのは、漫画版の統計学入門書の執筆だ。大学の仕事をやりくりしながら、なんとか実現してみたいと考えている。

